

ちば 千葉ちかこ

2013年新春号

通信

第59号

発行 千葉親子励ます会 会津坂下町大字大沖字上野1170-1
電話83-2964 E-mail sama-sama.uwano@sea.plala.or.jp

012年第4回定例会は、12月6日～14日の9日間の日程で開催されました。

主な案件は「会津坂下町ブランド・イメージ回復支援基金条例」「学校給食調理業務に関する事務の受託について」（湯川村の学校給食を平成25年度から調理や搬送など坂下町学校給食センターが受託するという事）などの案件です。

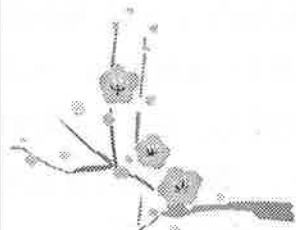
新春のごあいさつ

2012年3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原発の過酷な災害から2回目の正月を迎えました。なれない雪国で避難生活をされている方々のご苦勞を考えると心が痛みます。

今年は巳年。植物に種子がではじめる時期と考えられ、草木が成長して次の生命が作られはじめる時期とか。今年こそは、原発に依存しない次世代に続くエネルギーの芽吹き之年にしたいものです。

さて、昨年末の第46回衆議院選挙は未だかつて無い12もの政党の乱立の中、大震災と過酷な原発事故を経験しこれからの日本の針路を決める重要な選挙でした。これから、「脱原発」「自然再生可能エネルギー推進の国づくりを進めるのか」「核の脅威にさらされながら原発推進の道を選ぶのか」「農業や暮らしを根底から変えようとするTPP問題に反対なのか賛成してしまうのか」「生活格差を拡大する消費税の大増税を許すのか」「自衛隊を国防軍として軍国化の道を進め、世界に誇る日本の平和憲法を変えて戦争のできる国にしてしまうのか」極めて重要な選挙を行いました。多くの国民の思いは、脱原発、TPP・消費税増税反対、暮らしを守れの思いがありました。社民党頑張れ！の声を頂きましたが、社民党は、大きく後退を余儀なくされました。原発推進、経済優先の自民党政治へと舵が向いたのです。民意と投票行為について、とても深く考えさせられました。

地方自治の大きな役割は、住民の生きる権利と尊厳が守られるのかという大きな役目を背負っていると思います。それらのことを踏まえながら今年も住民福祉の立場に立って頑張っていきたいと思っています。日頃より、千葉親子に対し、ご支援ご協力をいただき、心より御礼を申し上げ年頭のごあいさついたします。



=今年から南小学校、東小学校=

若宮・金上・広瀬小学校が、第二次教育施設の統合で無くなりなります。通学の問題などたくさんの課題を抱えていますが、何よりも子ども達が楽しく学ぶ環境を作っていくことが大事と思います。



● ● ● 一般質問 ● ● ●

防災計画に女性の視点を活かせ

質問 防災とは、危険をおおめに評価し対策を取り住民を守る事、その見直しの時期及び内容は。

答弁 竹内町長
県は、地域防災計画原子力災害編など年度中に決定する方向、県の指導を仰ぎ来年度より町防災計画の見直しを進めます。



質問 わが町にも放射能汚染は影響を与えている。昨年、防災計画に原発災害計画を加えよと質した。今回の事故を受け整備を図っていくと答えている。長期的な対応が放射能対策だ。検討と整備内容は。

答弁 日下総務部長
県の原子力災害対策案が示されたが多くの発電所周辺の対策が主なものです。それらを踏まえ町の現状に則した長期的な放射能対策に当たります。

女性の視点は防災計画に欠かせない

質問 防災計画策定段階から女性の視点が計画に反映される事が必要で大事と思うが。防災会議の委員にわが町の女性の登用の比率は。



答弁 日下総務部長
委員は、県の防災会議に準じ町の条例で定めています。女性は入っていませんが県も防災会議に女性の視点を取り入れる事を求めておりますので、今後検討して参ります。

これでいいのか!!

放射能汚染状況の把握に取り組む町の姿勢

質問 会津は、比較的汚染が少ない地域であるが、間違いなく放射能が降り注ぎ、局所的なホットスポットが随所に発生している。今後の重点課題は。

答弁 日下総務部長
ホットスポットの点在は認識しています。町の除染計画に基づきホットスポ

ットの特定と除染作業を迅速に実施します。

質問 放射能は計って確かめ、いかに放射性物質から遠ざけ避けるかが大切、汚染の動きを的確に把握し、表土剥ぎ取りの除染だけでなく、多様な考えを示す事も今後の課題になると思うが。

答 弁 日下総務部長

除染の場所により方法も異なってきます。国は、10月23日付けで除染推進パッケージを公表しました。先進地との連携を図り適切かつ効果的に進めたい考えです。

質 問 内部被曝対策が今後の課題だ。無用の被曝を防ぐ為にも町民への啓蒙と学習が必要。



答 弁 日下総務部長

子育てサークルで講演会をしました。汚染きのこが検出されたときは町のホームページやフェイスブックに情報を掲載し敏速な情報提供をしている。福島再生事務所除染プラザや県の協力を得、実施していきます。

再質問 フェイスブックやインターネットを利用している人はまだ少ない。町民等しく情報を受け取ることができるか、が大事だ。

答 弁 日下総務部長

町の広報でもお知らせしています。今後より良い情報活動に努めます。

請 願

- 第4号「垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイの配備と低空飛行訓練に反対する意見書の提出を求める請願について」 **不採択**
 紹介議員 千葉親子 田中武昭
- 第5号「坂下中学校への冬期間のバス利用の無償化を求める請願書」 **採択**
 紹介議員 佐藤宗太 青木美貴子

陳 情

- 第1号「会津地域への自衛隊駐屯地誘致に関する意見書」 **採択**
- 第2号「2013年度の教育予算の拡充と教職員定数の改善を求める意見書提出」方の陳情 **採択**
- 第3号「坂下中学自転車通学の冬期間バス利用料金及び父兄の送迎の全額町負担に関する陳情書」 **一部採択**
- ※通学バスは公共交通利用となることから父兄の送迎に対しての町負担は無いということから一部採択としました。

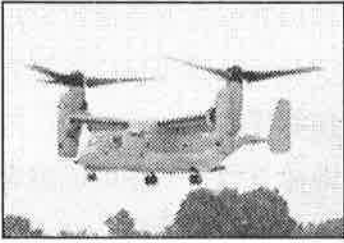
記念の50回目（12月11日）の一般質問

議員になって13年、千葉親子議員は、通算51回の定例会を経験し、50回の登壇（義父の告別式に一回休み）をし、町政全般にわたり質問、提言、議論を重ねてきました。一般質問だけが議会活動でないという方や、国の問題は国のことで地方に関係ないという方もいるが、質問をするということは、その問題を意識し、認識することで、学び、調査し、研究を重ねながらの発言に繋がるものです。



これからも町民の皆さまのご意見を真摯に受け止め、国の動向にもしっかりと目を据えながら、議会活動に頑張っていきたいと思っていますので、ご支援賜りますようお願いを申し上げます。

～ 右傾化の荒波に抗って ～



この度の議会で、継続審査となっていた請願・陳情2件が採決された。ひとつは、「オスプレイの配備と低空飛行訓練に反対する」と「会津地域への自衛隊駐屯地誘致に関する」ものです。

オスプレイは、沖縄だけの問題ではない。

軍事基地の恐怖のもとにおかれた沖縄は日米の巨大な国家権力によって、平和で安全な暮らしをしたいという思いと、美しい自然を踏みにじられ70年近くもの間「基地いらない！」の戦いを続けてきた沖縄。本土に住む私たちは、基地負担を沖縄に押しつけ沖縄県の全市町村が反対決議をし、抗議行動を連日行っていることをどれだけの人知っているであろうか。

140万沖縄県民の頭上をオスプレイは飛んでいる。爆風も爆音も従来よりも上回り墜落事故も多い危険な飛行機がやがて戦場に行く準備の低空飛行訓練だ。間もなく日本本土での訓練も始まることだろう。そのことを理解することもなく請願は不採択となり、オスプレイ配備・低空飛行訓練に会津坂下議会は賛成してしまった。本当にこれで良いのだろうか。

一方、会津坂下議会は会津に自衛隊基地誘致を賛成とした。陸上自衛隊の会津地域への移駐とその調査費計上で、人口増と産業振興と災害対応と言いながらも、陳情者は会津に軍隊があった頃は「若松連隊」と呼ばれ多くの若者が招集、入隊し政治・経済・教育・文化に影響を及ぼし市民に親しまれていたと言う。しかし、戦争中に若松連隊からどれだけ兵士が戦場に送られ、どれだけ多くの命が帰らぬ人となったか、歴史が証明している。

自衛隊を国防軍と呼び、戦争放棄の憲法9条の改正を推進しようとする動きが強まっている。オスプレイや米軍基地、米軍兵士犯罪などを沖縄の問題として沖縄に押しつけていることと、原発事故で今なお多くの方が故郷を追われ暮らしを奪われていることは、国策として行われてきたことで、憲法が保障する平和的生存権が損なわれていることになる。

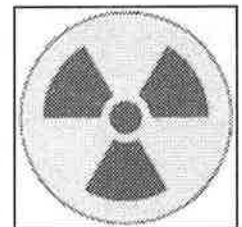
戦後68年の今、この時期を、後の歴史で戦前と呼ばれることのないように、右傾化の荒波に抗っていかなくてはならない。賛成できないものには一人でも反対する。

～ IAEAってなんだ ～

IAEA(国際原子力機関)の「原子力安全に関する福島閣僚会議」が12月15～17日に郡山市で開催された。除染や健康評価など福島県とIAEAの間で「東京電力福島第一原子力発電所事故を受けた福島県と国際機関との協力に関する覚え書」へ署名が行われたのです。

IAEAは原子力の平和利用としながらも強力な原発推進機関であり、1959年IAEAとWHO(国際保健機関)は、放射能の被害は協議をし、合意したものでないと公表しないとした。

IAEAのチェルノブイリ原発事故で、子どもの甲状腺被害の過小評価はあまりにもひどく、後年IAEAは見直しをせざるをえない状況を作っている。IAEAと原発全廃の立場にある福島県の基本方針とは相違しており、IAEAと福島県が協定書を結ぶという事は真に県民の生命を守ることにつながるのか大変疑問です。IAEAが指導協力をしていくという健康評価の拠点施設は南相馬市に、除染に関する「福島県環境創造センター」は三春町に建設が計画されている。



東北被災地視察研修

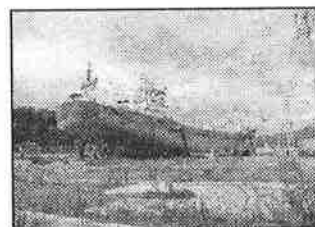


10月30～11月3日(5日間)長崎の被爆者団体協議会の川添さん達を案内して宮城県と福島県の視察研修をしました。

宮城県では現地の方の案内で石巻、女川、南三陸、気仙沼、陸前高田の津波被災現地調査。津波が川を7キロも遡った現場、内陸まで押し上げられた大型漁船、危機的だった女川原発、瓦礫の山、復興

復興に向け頑張っている方との交流は逆に元気をもらった。

宮城県に続き福島県は、いわきから6号線に沿って四ツ倉、久ノ浜、広野、楢葉、Jビレッジと原発事故を中心に視察。楢葉の仮設住宅、広野の火力発電所、除染の仮置き場、原発労働者の宿舎などの視察をし、研修の最後に川添さんと原発作業員の現状を石丸小四郎氏よりレクチャーをうけ、原発労働者の実態を学んだ。



この研修で一番感じたことは、宮城県で「頑張っているよ!!」と復興へのエネルギーが肌に感じたのに福島県では、その息吹を感じることが出来なかった。福島県民としての、自分自身の心なのか・・・そこに放射能問題と向き合う私が出た。

ちかこのぼちぼち日記

10月30～11月3日東北被災地視察研修

4日 原区ふれあい交流会



6日～8日 議会懇談会

(千葉議員は若宮・片門・坂下地区に出席)

9日 臨時議会

10日 北本市交流会(埼玉県)

11日 ふくしま会議(福島大学)

19日 少年の主張

22日 放射能測定現地研修・講演会

「汚染の中で生きる」河田東昌先生



25日 脱原発県民集会(小名浜)

26日～27日 国保運営委員会研修(常陸太田市)

12月1日 長寿そば祭り

1日 お産と地域医療を考える会津の会総会

講演会「底線量と健康」振津かつみ先生



4日 第46回衆議院選挙公示

6日～14日 第4回定例議会

19日 中学校体育館落成式

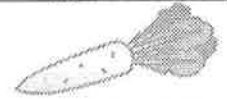
25日 社民党女性委員会放射能問題で県に要請行動(県庁)



エッセー

横澤丈夫

「べったら漬けのこと」



大根の加工食品の中で、「べったら漬け」ほど旨いものはないと思っている。スーパーでも、あつややかな姿はひとときわ陳列棚を引き立てているように見える。

今日の午前中、ラジオ放送で「べったら漬け祭り」準備の様子を中継していた。もともとは、東京神田かいわいが発祥地なのだそうだ。「べったら漬け」の呼称は、漬け物の形状に由来しているという。それにしてもあの白くて柔らかく、しかも水々しさがいっそう食欲をそそる。国語辞典には、「東京日本橋大伝馬町通りで10月19日、つまり恵比須講の前日の晩に「べったら漬け」の売る市が立つ。」とでている。またの名を「くされ市」とも呼ぶという。

これは、「べったら漬け」そのものが甘みが強く、保存がきかないことからきているらしい。

H21・10・19

「狸おやじと狐むすめのだまじあい」 ⑦



認知症と生活習慣病での入院には限界があり、3ヶ月入院できるのが奇跡である。

今の狸おやじに必要なのは治療よりも介護。早速、母との相談が始まった。選択肢は2つ。

①自宅で介護、②施設入所。デイサービスは洪々通ったが、ヘルパーとショートステイは頑なに拒否した経過があるので、自宅に帰った場合、母の負担が大きく、共倒れになる可能性が大である。施設はいつ入れるのか解らない。

家族協議の結果、自宅での生活は無理という結論になり、とりあえず施設入所の申し込みをすることにした。特別養護老人ホーム3カ所、老人保健施設3カ所、グループホーム1カ所の申し込みをした(入所後、狐むすめが通うことを考えて、車で30分以内を目安にした)。現実には厳しく、入所待ちが100人以上はざらで、多いところでは500人といわれ生きているうちは無理と内心思った。病院には7カ所申し込みをしたので入所が決まるまではと懇願し入院させてほしいと頼んだ。もちろん狸おやじには内緒である。



ああ～これでしばらくは一息つけるかと、ホッとしたのもつかの間、申し込みをしていた某施設からの一本の電話で事態はまた急変を向かえることになった。

「入所の順番が来ましたが、どうされますか・・・」 つづく Itou H

編集後記



「茹でガエル」
 巳年とは、実のなる年とか、今年は何をまき来年収穫、種はみな生えるので、悪い種は時かないように徳のある種をまくという記事を読んではいた、横澤先生の平成21年4月に書かれたエッセー「静かな時を」を思い出した。

「一日に一度ぐらひは静かな時を過ぎたいものだ。自分の周囲を見渡してみると、実に賑やかな世の中だとつくづく思う。人間関係はもとより、マスコミメディアを通じた種々の情報は過剰な様相を呈している。そうした中で、自分自身が生きていく上で欠かせない程度の情報の選択法が、一層難しさを増している。」まさに、今の私たちが置かれている現状だと思えました。

茹でガエルという諺があります。

熱いお湯にカエルを入れると驚いて飛び跳ねるが、水に入れ徐々に熱くしていくとその水温になれ、熱湯になったときには、もはや飛び上がる力を失い茹で上がってしまうのです。

大飯原発が再稼働されてしまいました。大飯に続き、伊方、泊、福島第2原発の再稼働さえも見据えて動き出しているのではないかと懸念されます。いったん走り出したら国民の慣れを待つて、なし崩しに突き進む、過去を振り返れば、政治とはその繰り返しでした。自分が暮らしている水温を確認していかないと、知らぬ間に茹でガエルにされてしまいます。

横澤先生の「自分自身が生きていく情報の選択法」を身につけることが大切だと思います。

そんなことに気をつけながら、今年も「ちかこ通信」を発行して行きますので、ご愛読下さいますようお願いいたします。